治療教育学研究　第21輯　2001年3月　13−26

ある自閉症児の長期にわたる自閉的態勢の経過とpost自閉的態勢に向けての心的作業（描画の変遷を通して）

神野　秀雄*

問題の所在

幼児期の自閉症児は，落ちつきなく動き回り，多動の状態である。また電気のスイッチをつけたり消したり，トランポリンに熱中したり，回るものは何でもクルクルと回そうとしたり，オモチャ等何でも一列に並べたり，砂場ではサラサラと指の間から砂を落としたり，プールでは欣喜雀躍し，水遊びを楽しんだりしている。このような感覚刺激を求め続ける状態を指して筆者は，「自閉的態勢」と呼ぼうと思う。自閉症は，Kanner, L.（1943）が述べているように，人間に生来的に賦与されているaffective contactが，おそらく生物学的な理由によって障害を受けているために対人交流が困難であろうと思われるが，対人的，情動的交流の困難性および多動や同一性保持行動に強く支配（occupation）され，感覚運動的な遊びを求め続ける感覚刺激の優位な状態を「自閉的勢態」として捉えたいと思う。

自閉的態勢といってもその共通性以上に，一人一人の自閉症児の幼児期の状態像の違いは極めて大きいのであるが，その後の変化・発達過程も実に多様である。筆者自身の自閉症児との臨床経験では，幼児期，自閉的態勢を示すものの，ことばを獲得しながら次第に変化・発達していく事例が多いような気がしている。しかしながらこれから検討しようとしている一事例では，長期にわたって徹底的に自閉的態勢を維持し続けたといっても過言ではない事例である。この事例の20年余のプレイの経過を検討しながら，自閉的態勢についてさらに深く検討するとともに，知的に最重度の自閉症児が自閉的態勢を乗り越え，克服しようとする時，どんな心の作業を行おうとするのかについて考えてみたいと思う。

＊　愛知教育大学障害児治療教育センター

1．事例　Aさん（女性）

Aさん，女性。早期破水。安産。体重3600g。母乳であったが，おっぱいを欲しがらなかった。手のかからない子で，あまり泣かなかった。あやせば笑った。歩き始めは1歳頃。転んだり，ぶつかっても泣かない。落ち着きがない。2歳代は多動で親が困る行動が増えた。醤油の瓶を風呂にあけてしまう。大便を仏壇に塗り付ける。異食が激しく，クレヨン，ナフタリン，脱臭剤，化粧品などを飲む。どういうわけかパンシロンや新パンシロン等の薬を好んで飲む。水遊びが好き。手足の爪は自分で食べてしまい，切ったことがない。マーブルチョコを同じ色ごとに一列に並べることが好き。

2歳半になってもことばが出ないため，ろう学校に相談にいった。耳は聞こえているということで，まもなく本センターの筆者を紹介される。その後，大学病院で自閉症と診断される。

本事例のプレイを開始したのは，Aさんが3歳4ヵ月の時であった。以後週1回50分を原則として20年以上にわたって筆者がセラピストを担当し，プレイを継続してきているが，現在（20代半ば）のところ音声言語は全くない状態である。

Aさんは，筆者のささやかな臨床経験のなかでも，最もかかわりの困難な自閉症であった。幼児期のプレイでは，多動傾向を示したものの，最も特徴とする行動は，「ものを並べること」へのこだわりであった。3～4歳の頃は，レゴブロックやポンキッキ時計をいくつも直線的に並べたりしていた。また「机と椅子」にこだわった。プレイルームでは卓球台の周りにソファを幾つも並べたり，講義室に入り，長机の周りに椅子を幾つもきちんと並べるのである（図1）。5～6歳の頃は，特に「色」に関心があるようで，カラーボックス（赤，橙，青，緑等）を色ごとにそれぞれ4つづつ並べ，正方形のような形を作ったりする（図2）。

またチョークにも関心を示し，講義室に入っては，未使用の新しいチョーク（赤，青，黄，白）４本を綺麗に並べている（図３）。また小さな積木では，２個をＬ字型にして，それを幾つも作り，整然と並べたりしていた（図４）。大きな積木では，それを高く積み上げ，ビルディングでも作っているかのごとくであった。このように直線的な幾何学主義的世界を好んで求めていたように思われた。

これらの遊び以外にもトランポリンや水遊びがみられた。特に水遊びは，楽しそうであり，小１の頃より，外のプールや室内温水プールでの水遊びが主要な遊びとなっていった。

本事例の場合，家庭や学校等も含め生活全般から20年余にわたってＡさんの状態像を理解し，「自閉的態勢とは何か」について考えていきたいと思う。プレイは長期に渡っているが，小学校（特殊学級）に入学してからは，水遊び等の感覚的遊びが中心のプレイであり，著しい変化・発達がみられたわけではない。Ａさんの経過をみると，家庭における過食による肥満や「トイレのサワデー」や石鹸等の収集に特徴がみられたので，以下母親から得られた家庭や学校での主要な出来事を中心にして簡単に歴年例にそって述べていこうと思う。しかしながらプレイ場面では，19歳頃より絵を描くようになったり，Ａさんの好きな石鹸やスーパーマーケットの店の名前をどんどん書くようになり，興味ある変化を示した。この点については，詳しく後に考えていこうと思う。

２．Ａさんの20年余にわたる経過の概要

(1) 幼稚園入園より20歳頃まで（母親からの報告を中心として）

―トイレのサワデー等の収集および過食と肥満―

幼稚園

地元の幼稚園では受け入れてもらえず，４歳４ヵ月より某市の某幼稚園に電車に乗って１時間以上もかけて通うようになる。幼稚園では椅子に座れないようで部屋のすみにいる。よく泣く。この状態が約１年あまり続いた。

５歳０ヵ月：ナフタリンが大好きで，沢山買わされる。ナフタリンに似ているのか，冷蔵庫の氷をビニール袋に入れて，それをタンスに入れるので困る。ガムを噛んで，それを自分の髪の毛につける。その部分が大分抜けて薄くなってきた。手のヒラヒラをよくしている。思うようにならないと自分の掌を噛む。オモチャ屋にいくと，片っ端から買ってしまう。買わないとパニックになる。家に持ちかえっても，箱の中もあけず，積んだまま。後でお店に返しにいく。それが分かるとパニックになる。

５歳４ヵ月：本センターで脳波検査を実施したが，異常は認められなかった。

５歳７か月：この頃はなんでも並べないと気が済まない。例えば財布からお金をだして100円，50円，10円玉をだしてきちんとそれぞれ並べる。６歳２か月：口の中に泡を作り，出したり入れたりしている。

６歳５か月：幼稚園に行くようになってから，駅などでウイロなど買うようになった。１日５～６千円使い１ヵ月数十万円使った。これが10ヵ月続いた。最近はカラフルなポケットティシュを沢山買わされる。

小学１年生（特殊学級に在籍）

４月：プレイは，この頃より温水プールや外のプールを中心とした場所で水遊びが中心となる。冬でも温水プールで遊ぶ。水遊びは中３頃まで続く。８月：トイレのサワデーを毎日３個ずつ必ず買う。幼稚園に入った頃より全く変わっていない。箱入りのティシュも沢山ある。これでいいのかと悩んでしまう。11月：最近はやることがダイナミックになってきた。台所に行き，アッというまに卵焼きを作る。パン粉と卵をかきまぜ，型に入れ，オーブンで焼く。巧くお菓子を作る。しかし調味料が入っていないので食塩をかけて食べた。性器をいじるので叱ると，戸を閉めてやっている。12月：学校では想像もつかないことをする。昨日は，学校の屋上にあがって端の方を走っていた。学校中が大騒ぎになってしまった。またトイレに入り，自分の履いていた靴下を脱いで，その靴下に中に大便を入れたり，水たまりの所で裸になって遊んでいたりする。２月：学校では男の子のトイレをのぞく。

小学２年生

９月：学校では朝からずっとプールに勝手に入っている。カボチャパンツを作ってくれという。パンツ２枚を縫い，その間にワタを入れる。Ａさんはそれを鏡の前ではいて，うっとりしているそうだ。３月：プレイでは，温水プールで遊ぶ。いつも耳の中にお湯を入れる。

小学３年生

４月：授業参観で椅子に座っているのを初めてみた。５月：プレイでは，お湯を耳にいれるが，それを10分以上続ける。６月：プレイでは，Th（セラピスト）の着ているＴシャツに水をかけてくる。ThのＴシャツが全部濡れると，水をかけることをパターとやめる。２月：プレイでは，人形に小さな瓶に入った玩具のミルクを飲ませている。Cl（クライエント）自身も口に入れ，飲む真似をしている。

小学４年生

10月：またウイロになった。店（イトーヨーカドー，ユニー，ジャスコ等）よって買う品物（シャンプー，リンス，ウイロ等）が決まっている。11月：最近日曜日にしか買い物に行かなくなった。３月：家では石鹸，洗剤，サワデー，リンス，ティシュ等が山のようになっている。春休みに某授産所に２週間通った。

小学５年生

６月：学校では，あれほど好きなプールに入らなくなった。低学年の頃は，まったく制止もきかず入っていた。いまは制止や禁止，指示に従うようになってきた。家では並べたりすることが無くなった。しかしやること，遊ぶことがない。片仮名は書く。イトーヨーカドー，トヨタカローラといえば書くが。７月：バスに乗る事を楽しみにしている。乗ってくる人をジロジロみて，そばまで行き，覗き込む。２月：プレイで「フレッシュフーズ　ナフコ　刈谷店」と書く。

小学６年生

６月：プレイでボードにClは指で線をひく。Thはその上をなぞるとワンピースが出来上がり，胸には「ひまわり」と思われる花がついていた。母親には，「ユニー」とか行きたいところを書くようになってきた。９月：夏休みに某授産所に通った。食事は全部食べる。ごはん→おかず→汁という順序で。最近やっと足の爪を切らせてくれる。手の爪は食べてしまう。10月：サワデーを今も買わされている。ここまで買わされたのだから「サワデー」ぐらい言わんのかと怒れてくる。「パパ」と「ママ」が言えるとのこと。

中学１年生（特殊学級在籍）

８月：夏休みに６キロも増えた。よく食べる。冷蔵庫のものを出して勝手に料理してしまう。肉類が好きで，フライパンでいためて食べてしまう。９月：日曜日ともなるとＡさんの好きなものを買ってしまう。ウイローの特選という３本いりのもので2500円もする。カーマホームセンターでは赤ちゃん用の紙オムツとか。１月：10人がかりで歯の治療をしてもらう。以前から行きたい所を，例えばユニーとか，書いていたが，最近は，品物の名前，ヴィクスデポラップとか，薬の名前を沢山書くとのこと。三越のマークを書いた。Ａさんを車に乗せ，指示通りに走ったら結局三越デパートに着いてしまった。「どうして道順を知っているのか。一度も車で連れて行ったことがないのに」と母親は言われる。

中学２年生

４月：資生堂の高価な石鹸を買わさられる。「ＳＨ」と書いて要求してくる。10月：月曜日はマクドナルド，火曜日はスワローとか曜日によってポテトとかジュースとか買う習慣になってしまった。１月：今，64キロになってしまった。買いだめしておいた牛肉を全部一人で食べてしまった。

中学３年生

４月：プレイ。この時期より，母親の意向もあってプールでの遊びは終えることになった。Clの関心は積木である。５月：プレイでは，急に泣き始め，奇声をあげ，指を鼻の中にいれたり，不穏な状態が続いた。10月：プレイでは，「お絵かき先生」に「ソーダ　ポテト　ハンバーグ　コーラ　スワロー」と書く。Ａさんはいつも前の日の夜，紙に要求の品物を書く。母親がＡさんを学校へ迎えに行くと，生徒手帳にはさんだ紙切れを母親に渡し，そこに行くよう要求してくる。ＰＯＬＡの○○とか，化粧品関係が多い。12月：プレイでは，「お絵かき先生」に「Kahma　カーマホームセンター　パンパース」と書く。１月：１日に一ヶ所しかお店には行けない。２ヶ所要求しても，行かないと夜中に怒る。今はホネケーキ２個とウイロ３本とお菓子など３～４千円掛かる。全く行ったこともないお店に，どういうわけか行けと要求する。Ａさんの言うとおりに行くと辿りついてしまう。新聞の折り込み広告にも入っていないし，近くを通ったこともないのにどうして分かるのかしら。

中学卒業後，授産所に通所

16歳

４月：ボードに「ポテト　コーラ　ソーダ」等書く。６月：昨日「ＳＯＧＯ」と書いたので，行

ってきた。日曜日には，Aさん自身でドンドン料理を作ってしまう。食事制限が難しい。9月：8畳の間が，サワデー，シャンプー，キャラメル，石鹸等で山のようになっている。11月：プレイでは，突然泣き，メソメソしている。かと思うと急に笑いだす。12月：4月より10kg増えた。ものすごく食べる。ビールでもお酒でも飲んでしまう。

17歳

4月：モノを集める。ウイロから始まって，石鹸（ホネケーキ），トイレのサワデー，温泉の素など。家中そんなもので一杯だ。7月：プレイでは，服をきたまま外プールに飛び込む。男の子（自閉症）が水遊びをしているが，彼の側に行き，オチンチンを覗きこむ。9月：9～10月までの2ヵ月，グループホームに入る。1月：グループホームではパニックになることもなく無事終えた。帰ってきたら，再び買い物に連れていかれる。

18歳

4月：プレイでは，画用紙にクレヨンを塗り付ける。トランポリンに乗る。ブランコをする。ガットに触れる。人形の髪の毛に触れる。パチンコをする。積木を触る。ボードに「吉浜人形店　碧南店　ＡＰＩＴＡ　アピタ　そごう」「ＳＨＩＳＥＩＤＯ」と書く。5月：84kg。9月：2ヵ月間，グループホームに入る。1月：プレイでは，ユニー，ヤマナカ，吉浜人形，アピタ等の文字を繰り返し書いていた。

19歳

4月：2か月間，グループホームに入る。6月：79.5kgに減った。プレイでは，リカちゃん人形の髪の毛を嘗めたり，噛んだりしている。ビーズ玉でネックレスを作る。積木や色紙で遊ぶ。10月：最近日進町のユニーに行く。またサワデーを集める。

20歳

5月：今は何でも食べるようになり偏食は無くなってきた。9月：Clは手にレモンを持っている。Thが「これ何？」と尋ねると，「先生」に「レモン」と書く。色々果物の名前はかくことが出来る。「2＋3＝」と書くと「5」と書く。10月：2ヵ月間，グループホームに入る。1月：プレイでは，「（プレイを終えて）帰ってから何食べるの？」と聞くと，「ポテト」と「先生」に書く。「夜は何たべるのかなー。ご飯？お肉？」と聞くと，「ごはん」と書く。色々きくことがうるさいようで，まもなく「おわり」と書いたのには，驚いてしまった。1月：プレイでピクチャーパズルを出したら，初めてやり遂げた。

20歳頃までの経過のまとめ

これまで述べてきたようにAさんの特徴は，物の収集と過食による肥満であろう。

Aさんは，すでに5歳頃より玩具屋さんでは，片っ端からオモチャを買い込み，自宅の自分の部屋に積んでおくことを始めている。幼稚園に電車で通うようになってからは，特にウイロを毎日買うようになった。これは，「色」に関心があってか，「青柳ウイロ」を好んで買ったようだ。小1の頃より，収集するものは次第に限定されていったようだ。トイレのサワデー，石鹸，温泉の素，シャンプー，リンス，化粧品等であるが，これらは，どうも「身体」に関係するもので占められているように思われる。母親によるとこれらの収集物は，ウイロを部屋全体の端に枠のように長方形に並べ，その中にサワデー等の収集物が高く積まれているとのことである。またこれらの中でウイロにおいても自ら食べることはなく，ただ積んでおき，一つでもなくなるとパニックになるようである。

もう一方は過食であった。小1の頃より自ら調理することができるようになり，冷蔵庫の中から好きなものを取り出し，料理して食べるようになった。特に中学生の頃より好きな食べ物（肉類）を自分で料理して食べるようになり，体重も増加していき，一時は90kgちかくになったこともあったが，その後，80kg前後で推移してきている。

物の収集と過食とは，どこか関連がありそうである。サワデーや石鹸がうず高く積まれた8畳の間と，Aさんが沢山食べ，お腹が一杯の状態とが，あまりにも類似している。8畳の間は，あたかもAさんの胃袋のように思えてくる。胃袋の中のものを誰かにとられたらたまらない。胃に穴があいたようなものだ。Aさんは，石鹸を沢山収集したり，肉類を一杯食べ，何か心の空白を埋めようとしているように思われる。しかしいくら集めても，食べてもその空虚感は癒されないようだ。温水プールでの遊びでは，お湯でボートを一杯にし，それをあけて空にし，また一杯になることを繰り返していた。また外のプールでも水で一杯にしようとした。外プールには，水が一杯になると自然に

水が流れ出ていく小さな円形の排水口があるが，Aさんは，空き缶を探してきて，それに蓋のように被せてしまい水が流れないようにしてしまうのである。Aさんの知恵に感心してしまうが，何かが一杯になることを求め続けるのであった。

(2) 20歳頃より24歳頃までのプレイの経過 —描画活動や「書くこと」への没頭と収集物の廃棄—

これまでのプレイの経過を簡単に振り返ってみると，幼児期では，物を並べることへのこだわりが強くみられた。小1の頃より水遊びが中心のプレイとなり，それが中2の頃まで続いた。中3の頃より水着を持参しなくなったが，やはりMさんにとって水遊びが最も楽しいようで，2年間ほどは水遊び中心のプレイが続いた。

水遊びが終了してからは，まとまった遊びがみられないが，Clが関心を示した主要な遊びをあげてみると以下のようになるであろう。

①小さな赤ちゃん人形をいつも探し，その髪の毛を触る。身体を曲げると「オギャー」と泣くのが面白いようだ。またCl自身の髪の毛を櫛でといたり，前髪を1本ずつ抜いたりする。②積み木で遊ぶ。特に三角柱の積み木が好きで，幾つも集めてくる。それを組み合わせて，正方形や長方形を作ったりする。また積み木と積み木を擦り合わせることをよくしていた。③色紙遊びでは，一枚一枚手に持ってよく見ている。気に入った色紙とそうでない色紙を分類しているだけの遊びであるが，最後には2つの色紙の山ができる。Thから見ると，全く同じ色をしている2つの色紙をじっとみつめ弁別している。本当に何をみているのか不思議な気がした。④紐にビーズ玉を通し，ネックレスのようなものを作る。それを首にかけ，鏡で見ている。またラムネ玉を口の中に何個も入れ，そのうちにそれを取りだし，手で擦ったりしている。⑤トランポリン，ブランコ，三輪車，補助輪付きの自転車にのる。⑤バトミントンのガットが好きのようで，いつも必ずそのガットを手で擦っている。⑥18歳の頃よりボードに好きな食べ物や，お店の名前を沢山書きはじめた。⑦嬉しい時や怒った時には，カエル跳びのような恰好をしてピョンピョン飛び跳ねる。また急に涙を流して泣いていたかと思うと，突然笑いだしたりすることもあった。稀ではあるが怒れた時，自分の掌をひどく噛むこともあった。

以上のように極めて感覚的な遊びが中心であり，筆者にとっては了解困難なことが多く，ClとThとの交流は極めて希薄であった。

Aさんは，20歳8ヵ月の頃より突然に画用紙一杯にクレパスで塗りこむようになった。以後3年半にわたってクレパスを用いた描画活動が続いた。またAさんは，次第に収集している物の名称やスーパーマーケットの名前を「お絵かき帳」に書くようになっていった。以下描画活動の内容を中心として4つの期に分けて経過を述べていこうと思う。

I期　＃540（20歳8ヵ月）～＃544（20歳10ヵ月）
画用紙全体を塗りつぶす

X年2月から3月までの2ヵ月間の5回のセッションであるが，プレイの前半の30分ほどを用いて画用紙にクレパスを塗りつけた。最初の描画（＃540）が図5である。上半分は青を激しく塗り，その上に赤を塗りつけた。下半分は赤を塗って，その上に青を少し塗ったものである。このセッションでは，他にも3枚描いたが，これほど激しいものではなく，かって描いていたように，何色かの色を塗りつけていた。図6は，3月の＃543に描いたものであり，赤で一面塗りたくり，その上を青で塗ったものである。Clは，力を入れて激しく塗るために，クレパスが何度も折れてしまう。どのセッションも30分ほどかけて3～4枚描き，後半はピクチャーパズルをしていた。

コメント

Aさんは，18歳頃よりプレイ中，クレパスを見つけると，画用紙に少しだけぐるぐると塗りつけることをしていたが（例としては，後に示す図13，図14のような描画），すぐに関心が他に移ってしまっていた。20歳になってからのこの時期に，初めて感情を高ぶらせながら激しく塗りたくったのである。図7は，このシリーズ最後の描画であるが，真っ黒に一面塗られている。あたかも心や身体にある何かを一気に吐き出している印象を受けるのである。このセッションでは全部で7枚描いたのであるが，2枚目以降では次第にピンク，黄色，白，橙，緑など明るい暖かい色合いのクレパスを使い，形にならない塗りつぶしをしていた。

5回のセッションの全体の傾向としては，最初にドロドロしたどす黒い絵を描き，その後は次第に明るい，暖かい色合いのクレパスを使用していた。

Ⅱ期　＃545（20歳10ヵ月）～＃564（21歳7ヵ月）

1本のひまわりを描く

この期は4月より12月までの9ヵ月間である。Aさんは，4月に入ると，「ひまわり」を描き始めた。＃545では，1枚目では，これまでのような塗りつぶしであったが，2枚目では突然に画用紙に1本のひまわりを描いた。これは輪郭のみの弱々しいひまわりであり，3枚目，4枚目になるに従って花や葉の部分を塗りこんでいく。そして5枚目になってやっと納得のいくひまわりが描けたようである。それが図8である。次回の＃546でも4枚，しっかりしたひまわりを描いた。しかしながら続く2回のセッションでは，Ⅰ期のように画用紙全体に激しく赤や青の色を塗りつけていた。＃549では，画用紙の左端に小さなひまわりを2枚描いた。しかしながら次回の＃550では，再び中央に大きく1本のひまわりを描いた。この頃より，各セッションでは1枚のみひまわりを描いた。9月9日の＃556では，図9のように「昭和ひまわり」と書いたのである。それが2回ほど続き，その後は「平成ひまわり」と書くようになった。平成になってからは，次第に輪郭のみのひまわりになり，12月9日の＃565が最後のひまわりの描画（図10）となった。

コメント

なかなか謎めいた「ひまわり」の描画の推移であった。そもそもAさんはなぜ「ひまわり」を描いたのかという謎である。最後のひまわりを描いた次のセッションは，約1ヵ月後の翌年の1月6日（＃565）であった。Aさんは，画用紙に次のように文字を書いた（図11）。黄色のクレパスで縦に「ユり2」と書いた。次に緑色で「ニわ1」，次に赤色で「ーお3」と書いたのである。筆者は，その時は意味が全く理解できなかったが，かなり時間を経てから，ハッと気づいたのである。Aさんの書いた文字を，縦に読むから分からないのであり，横に読むと，「ユニー」「おわり」「2 1 3」と書いたのであろうと推測したのである。この数字の意味は未だに分からないが，ともかく「ユニーは終わったんだ」と筆者にメッセージを伝えたのだと相当時間を経てから気づいたのである。次に「ユニー」のマーク（商標）は「ひまわり」でもないし，ユニーと「ひまわり」はどう結びつくのかという問題が残る。2月の＃570では，「お絵かき先生」に「ヤマナカ　陣中店」と書き，そしてひまわりを描き，その下に「サンフラワー」と書いたのである。筆者は，「ヤマナカ　陣中店」を全く知らなかったが，これもかなり時間を経てから，「陣中店」近くに住む学生から教えられたのであるが，ヤマナカ陣中店の屋上には，まさにAさんが描いたものとそっくり大きなひまわりが店のシンボルとして描かれているとのことであった。ユニーとヤマナカの違いはあるものの，要するにAさんの好きな総合スーパーの象徴として「ひまわり」が描かれたのであろうと推測されたのである。したがって素直に読み取るとすると「総合スーパー　おわり」ということになる。

次の問題は，ひまわりの絵の在り方の変化である。またその花の名前も，単なる「ひまわり」から「昭和ひまわり」へ変わり，この頃までは，力強く描かれていた。そして実際のところは，1回のみ「平昭ひまわり」と書かれたことがあったが，「平成ひまわり」になってからは，次第に弱々しいひまわりになっていき描画は終了してしまった。Aさんの描いたひまわりは，1回ごと，1枚ごと微妙に差異がある。決してパターン化されてはいない。何かAさんの真実の心を映し出しているひまわりのように思えてならない。あたかもAさんの総合スーパーやサワデー等の収集物に対する過去からの何らかの変遷のようにも思えるが，よく分からないところである。

Ⅰ期では，画用紙一面にどす黒く塗られた絵が印象的であった。また明るい，暖かいクレパスを使い，何かが生まれる印象もあったが，そこに輝く「ひまわり」が登場したのである。ひまわりは，Aさんにとって最も大切な収集物を象徴しているように思われ，Ⅱ期に描かれたひまわりは，何らかのAさんの収集物に対する気持ちの変遷を示唆しているといえよう。

Ⅲ期　＃565（21歳7ヵ月）～＃591（22歳2ヵ月）

「チューリップ」を描くが，描画への意欲は減退。好きな店の名前や収集物の名称をお絵かき帳に書く。家庭では，収集物を廃棄処分する。

この期は１月より７月までの７か月間である。１月に入ると，１枚の用紙に大きく輪郭のみの「チューリップ」を１本，す早く書く。２枚目では別の色で同じようにチューリップを描くのである。赤，青，橙，ピンク，紫など７～８色のチューリップを10枚ほど描いて終わってしまう。このような描画が続くのであるが，６月の終わりの＃584より，このチューリップの花や葉っぱが塗りつぶされるようになった。

チューリップを描いてから，「お絵かき先生」にスーパーの名前を書くようになった。例えば「ショッピー　やまね」と書く。筆者は，数回「何を買いたいの？」と聞くと，やっとＡさんは，「ガム　ロッテ梅」と書いた。このことを契機としてＡさんは，どんどんお店の名前を書くようになった。「ユニー」と書いたので，「何買いたいの？」と尋ねると，「カルビー　ポテト　チップおうす味」とか，「小豆ういろ　ひき茶ういろ」等書くのである。２月に入ると，Ａさんの好きなスーパーが沢山書かれるようになった。ユニー，イトーヨーカドー，ナフコ，ＡＰＩＴＡ，ヤマナカ，ＳＯＧＯ等の○○店を書いていく。「何買うの？」と尋ねると，ウイロや石鹸が多かった。４月に入ってから筆者は，「お絵かき帳」を渡すと，そこに店名と品物を筆者の質問はなくても自発的にどんどん書いていく。毎回20～30ぐらいの店名が出てくる。その量の多さに筆者は圧倒されてしまうのであるが，Ａさんは淡々とプレイの終了時間まで書き続けるのである。

この期の最大の出来事は，収集物の廃棄であろう。正確なことは分からないが，２月頃よりトイレのサワデーを黒いゴミ袋に入れ，片付け始めたようだ。８畳の間に高く積み上げられていた収集物が次第に少なくなり，４月には全ての収集物をゴミ袋に入れ，ガレッジに持っていき，８畳の間は，きれいに片づいたとのことである。母親によるとウイロだけでも25袋のゴミ袋を使ったそうだ。これを契機にして何も収集しなくなったわけではないが，母親によると「ガム」のみ集めているようで，箪笥の引き出しに綺麗に並べてあるとのことである。

コメント

Ⅲ期にはＡさんにとって最大の出来事がおきた。それは収集物の廃棄である。それにしても20年間ちかく集めてきた大切な物を，なぜ廃棄する気持ちになったのであろうか。基本的には，象徴機能が発達してきたのであろうと思われる。これまでは，サワデーにしろウイロにしろ，物その物でないとＭさんにとって満足できなかったが，上述してきたように描くことや書くことによって代理（象徴）機能が活性化するようになったといえるであろう。

Ⅰ期では，突然画用紙全体を塗りつぶすことから描画活動が始まった。Ａさんの心身に溜まっていた何かを吐き出すような作業であった。そしてⅡ期では，１本のひまわりを描き続け，それが次第に弱々しいひまわりに推移していった。１月に入り，「ユニー　おわり」と書き，２月頃より収集物を片付け始めたのである。今思えば，「ひまわり＝総合スーパー＝サワデー等」のように理解でき，ひまわりを描くことは，本当に長期にわたる収集物に対するＡさんの思いの変遷を辿った作業のように思われ，その作業をやり終えて収集物全部を捨てたのであろう。

Ｍさんは，いろいろな物を収集したが，その中心はサワデーや石鹸であり，「身体」を清潔にする物のように思われる。一方では，過食傾向があり，肥満になり，身体には一杯汚物が溜まるのであろう。それを打ち消すかのごとくサワデーや石鹸を収集したように理解される。

Ｍさんは，筆者の前で描いたり，書き続けた。やはりこのことが極めて重要なことのように思われる。筆者は，Ａさんのそばに座り，Ａさんの作業を見守り続けていた。Ａさんからみれば，描画や書くことの作業を通して何かを表現しているわけであり，それを筆者が受けとめ，筆者の頭に浮かぶ連想を大切にし，できるだけ感想を言語化しようと努めていた。このような交流を通して，Ａさんの中にやっと「心の器」が形成されてきたように思われた。物その物を心に納めることはできない。Ａさんは眼に見える形で大量に８畳の間に収集した。物その物の代わりに「絵」や「書きことば」で代理することが出来るようになったわけで，まさに象徴機能の発達なのである。しかしながら「サワデー」と書いても，おそらく実物のサワデーその物にちかいニュアンスの書きことばであり，象徴機能の第一歩といってもいいくらいのレベルであろう。

Ⅳ期　＃592（22歳３ヵ月）～＃657（24歳

2ヵ月）

「チューリップ」と空白（空間）との対決

この期は，丁度2年間であった。Ⅲ期では，輪郭のみのチューリップを描いていたが，7月頃よりそのチューリップの花や葉を塗りつぶすようになった。8月は夏休みであったが，9月に入ると，画用紙の1枚目には，6つの小さなチューリップを描き（図12），2枚目には左上に2つのチューリップを描くのである。ここまでは，パターン化されており，全てのセッションほぼ同じチューリップが描かれた。問題は，2枚目の2つのチューリップを描いたあとの空白をどのように処理するかがAさんの課題であった。この2枚目の描画がとても興味深く思われたので，簡単に報告したい。

（Ⅰ期）9月より翌年2月までの6ヵ月間の12セッション

9月の最初に描いたものが図13である。チューリップの下に白と紫色を重ね塗った小さな楕円形を描く。その小さな楕円形がセッションを重ねるうちに数が増えていった。図14は11月の初めに描いたものである。そしてさらにこの楕円形は，数が少なくなると同時に形態がはっきり描かれるようになり，1月では，長方形（図15）となっていった。

（Ⅱ期）2月より翌年4月までの1年3ヵ月間の45セッション

図16（2月）は，最初に空白が埋められた描画である。ただし右上の部分がまだうまく処理できないようであった。その後，図17（4月）のように小さな幾つもの正方形で埋められたり，図18（6月）のように大きな2つの固まりに分割されることもあった。そして図19のような比較的安定した描画が長期にわたって続いた。

（Ⅲ期）5月より8月までの3ヵ月間の8セッション

大きく変化したのが，5月の#650であり，図20に示されたように，赤と白のチューリップをさらに描き，右端には6つの4角形が描かれた。そして7月には，これまでずっと1枚目には，6つのチューリップを描いていたが，それを描くことはせず，図21のように赤と白のチューリップを描き，下方に四角の固まりを描いた。このシリーズ最後のセッションでは，1枚の画用紙に大きく赤のチューリップを描き（図22），2枚目には白のチューリップを大きく描いたのである。

コメント

この2年間，Aさんはチューリップの描画活動を通して何をしてきたのであろうか。最初の図13では，ポンと2つの固まりが小さく，遠慮がちに画用紙の端に現れた。映画のフィルムの1コマのように描画は，各セッションごとに毎回少しずつ微妙に変化していくのである。最初の固まりは，次第に数が増え，短冊を連想するような形や色になっていった。どの描画もAさんは30分ほど没頭する。激しく力をこめて塗りこむために，クレパスはしょっ中折れてしまう。Aさんの全てを画用紙にぶつけている印象がするのである。そして最終的に完成したのは，画用紙一杯に大胆に描かれた1本のチューリップであり，存在感のある本当に力強い，堂々としたチューリップであった。

心的作業という視点から考えれば，この2年間の経過は，漠然として曖昧模糊な世界空間を自分自身のものにしていく過程，即ち空間分割の作業のように思われる。経過に示されたように世界空間を3分割にしたり，沢山に分割してみたりの試行錯誤であった。枠を最初に書き，その中を激しく塗りこむのであり，あたかもそこに魂を入れ込む作業を繰り返していたように感じられた。そして図19のような比較的安定した描画が続いた。最終的には，ただ1本のチューリップが大胆に描かれたのであった。これら一連の作業を通して世界空間を自分自身のものにし，人間社会の中で自分の身を置く居場所をみつけたように思われる。幼児期，Aさんは椅子にこだわり続けたが，人間社会の中で，自分の座る「椅子」をやっと見つけることができたように思われた。

3．全体的考察

(1) 自閉的態勢について

これまでAさんのおよそ24年間の経過を述べてきた。その経過をみると，20歳頃が大きな節目になり，次第に心（精神）が創造されていったように思われた。20歳頃までが，いわば自閉的態勢に強く支配されていたと考えられるので，まずその特徴を整理してみたい。

① 感覚について

皮膚感覚：プレイの場や学校ではプールでの水遊びを最も好んでしていた。味覚：幼児期は異食が激しかった。また偏食も激しかったが，しだい

に偏食は改善された。聴覚：水遊びの時，よく耳に水を入れていた。触覚：いつもバトミントンのガットを指で撫ぜている。嗅覚：トイレのサワデーとか石鹸とかMさんの収集物は，一方では臭いに関する物を集めていたようにも考えられる。視覚：カラーボックス，チョーク，ウイロ，色紙など色彩に関心を示してきた。

このようにMさんは，皮膚感覚，味覚，臭覚，触覚，視覚などの感覚に強く支配されており，極めて固有な，独特な感覚体験を求め続けていた。

② 記憶力について

プレイのⅢ期のところで述べたが，21歳の後半より「お絵かき帳」にスーパーの名前やお気に入りの品物を書くようになった。時間のある限り，どんどん書き続けるのである。同じスーパーや品物の名前も繰り返し書かれる。これはAさんが思いつくままに好きなスーパーや品物を書いているのかと考えていたが，どうもそれは違うような気がしてきた。これは実は，Aさん自身の体験を書いているのではないかと思えてきた。例えば次のようなことがあった。あるセッションで「ユニー東浦店」と書き，石鹸等書き，次に「ももいろ　みずいろ　きみどり」と書く。次の「ユニー日進店」では，石鹸を書いた後に「あか　きいろ　だいだいいろ」と書く。このセッションでは，合計12のスーパーの名前を書き，3色～5色の色名をそれぞれ書いていたが，一度として同じ色名の組み合わせはなかった。全部で7色の色名がでてくるが，組み合わせが重ならないように考えながら書いていたとは思えない。母親によると，この色名は，水彩絵の具の色のようだ。スーパーでは，絵の具の「ばら売り」をしており，スーパーに行っては，3～5本ずつ買った時期があったとのことである。このようにAさん自身の買い物体験が記憶されていて，その記憶に基づいて色名を書いていると考えるのが素直な理解の仕方であろう。同時に「お絵かき帳」に書かれる店名や品物は，Aさんが買い続けてきた経験を記憶に基づいて書いているようにも思われる。このことは常識的には信じられないが，あり得ることであろう。

③ 退行（赤ちゃんに戻りたい欲求）について

Aさんは，赤ちゃんにひどく関心を示す。本センターに来所した時，他のお母さんが赤ちゃんを連れてきたりすると，必ず近づいて触ったり，つねったりする。これまで述べてきたように，買い物では，赤ちゃん用の紙おむつ（パンパース）を買いたがった。パンパースを買うと，それを自分ではいて，そこにおしっこをしてしまうのである。また幼児期から児童期にかけては性器いじりをしたり，男の子のペニスに関心を示した。このようなエピソードをどのように理解するかは難しいが，Aさんのなかには，根本的には赤ちゃんあるいは胎児期にまで戻りたいneedsはとても強いように思われる。

④ 物を並べること，収集すること及び過食と肥満について

Aさんは，幼児期に主としてカラーボックスを色ごとに並べたり，チョークを並べたり，机の周りに椅子を整然と並べたりしていた。この並べることは，自閉症児にポピュラーにみられる現象であり，従来より同一性保持行動として知られている。その後Aさんは，サワデーや石鹸，ウイロなどの収集を始め，それが10数年にわたって続いた。中学生の頃より特に過食傾向が強まり肥満になっていった。

以上のような特徴をあげることができると思われるが，Aさんの強いneedsとしては原始感覚を求める行為であろう。おそらく皮膚感覚を始めとしてこれらの感覚が，Aさんに最も強いvividな実在感をもたらすのであろう。この原始感覚に強く支配される状態を自閉的態勢といってよいであろう。同時に多動であったり，外界に対して働きかける場合は，自閉的幾何学主義といってよいような同一性保持行動となり，整理された秩序だった世界を追い求めるのである。これがAさんの幼児期の姿であろう。

加齢とともに次第に自閉的態勢から抜け出そうとする動きは当然のことながら起きてこよう。自閉的態勢は，一方では極めて不安の高い状態でもあろう。むしろAさんは，不安が惹起されてこないように心が働き，物の収集に支配されるようになっていった。この段階になると記憶が機能してくるのであろう。Aさんの場合，どこのお店で何を買ったのかについて，全てといっていいくらい記憶されているように思われてならない。いわゆるsavant症候群の記憶の問題である。Aさんは，特にカレンダー記憶が優れているわけではないが，最も関心のあるサワデーやウイロ等をどこのスーパーで買ったのかについては，おそらく記憶されているに違いない。また品物そのものと，そ

れを表す文字やマークとの連合学習もなされ，文字が品物を表すという表象機能をもち始めたといってよいであろう。しかしながらAさんが用いる書きことばは，文脈に応じて多様に使いこなす象徴機能を備えているわけではなく，品物の代理機能は果たしており，表象（representation）として，Aさんにとっては極めてrealに品物を想像（再現前）できるのであろう。

以上のように原始感覚や同一性保持行動に強く支配されている状態を「自閉的態勢」といえよう。Meltzer, D.（1975）は，この態勢を“mindless”と呼んだが，おそらく記憶に関する能力は機能しているように思われる。自閉的態勢は，バラバラの感覚の世界であるが，Aさんの収集物の多くは，「身体」に関連があるように思われ，また過食や肥満も当然のことながら身体の問題であり，どうも「身体」の問題が共通のテーマのように思われ，山上（1999）も述べているようにバラバラな身体感覚や身体イメージを統合することが最初の重要な心的課題であることを示唆している。

(2)「自閉的態勢」を乗り越え，克服しようとする過程

Aさんは，幼児期より青年期までプレイ場面では，感覚遊びを好み，物とのかかわりか，あるいは自分自身の身体にかかわることを続けていた。20歳頃より突然に描画活動が始まった。画用紙一面にどす黒い色を塗り始め，間もなくして輝く1本の「ひまわり」を9ヵ月間ほど描き続けた。それを終えてから，これまで収集した物を片付け始め，とうとう全ての収集物を廃棄してしまったのである。ほぼ同時にスーパーの名前やお気に入りの品物の名前を猛烈に書き始めた。また並行して「チューリップ」を2年あまり描き続け，最終的には，堂々とした大きな1本のチューリップを描いたのであった。

「ひまわり」の描画は，輝くひまわりが，次第に枯れていき弱々しくなっていった。その後に収集物を廃棄したことを考えると，このひまわりは，収集物との別れの儀式のようにも思われる。一方チューリップでは，画用紙の空白を必死に塗りたくり，そこから何かが生まれそうな感じを抱かせていた。2年間という長い時間を使いながら，やっとのことで生き生きした，存在感のあるチューリップを描くことができたのである。最初に2つの小さな楕円を描き，それが2年間かけて育まれ，チューリップとして誕生したといえよう。このことは同時にAさん自身の誕生でもあろう。

4年間Aさんは，筆者のそばで描き続けた。Aさんは，自分の思いを描画を通して表現した。ドナ・ウィリアムス（2000）は，自閉症児の“exposure anxiety”を訴えているが，Aさんの中に表現しても大丈夫だ，安全だという感覚が生まれてきたのであろう。表現されたものが筆者の中に投げ込まれたのかもしれない。筆者は無意識のうちにその場に浮かぶ感情を大切にし，Aさんに投げ返していたと思う。殆ど無意識的な交流が自然に生起していたかもしれない。

「ひまわり」は過去との決別であり，「チューリップ」は新生への険しい道のりであった。具体的には，画用紙の空白にいかに対決していくかという課題であった。これは空間世界をいかに親しみのある，自分に馴染みのある世界にしていくかという作業であり，これらの作業を通して現実の人間社会の中にAさん自身の身を置く居場所を見つけたように思われた。

このようにAさんの長い経過を振りかえると，自閉的態勢を乗り越えることが，いかに大変なことであり，いかに困難なことであるかを，あらためて教えてくれているような気がしている。Aさんは，完全に収集物と別れたわけではない。その後も「お絵かき帳」にスーパーやお気に入りの品物の名前を書き続けており，自閉的態勢からpost自閉的態勢に向かうことは，何と困難なことなのかと思うのである。

（本論文をまとめるにあたり，快諾して下さったご家族の方に心よりお礼申し上げます。）

引用文献

神野秀雄　1989　自閉児の類型化と発達過程の研究　風間書房

カナー, L.（十亀史郎ら訳）1978　幼児自閉症の研究　黎明書房

Meltzer, D. 1975 Explorations in autism. Clunie Press.

山上雅子　1999　自閉症児の初期発達　ミネルヴァ書房

ウィリアムズ, D.　2000　講演（高機能自閉症の人からの提言）　東京・九段会館ホール



図　1

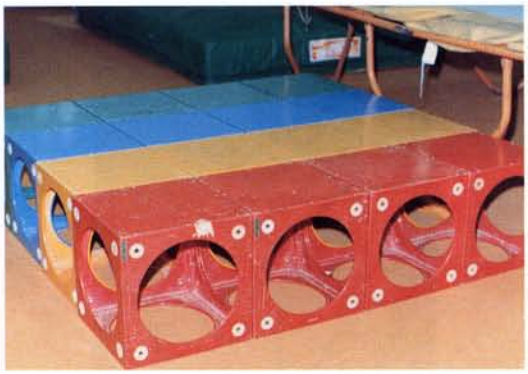


図　2

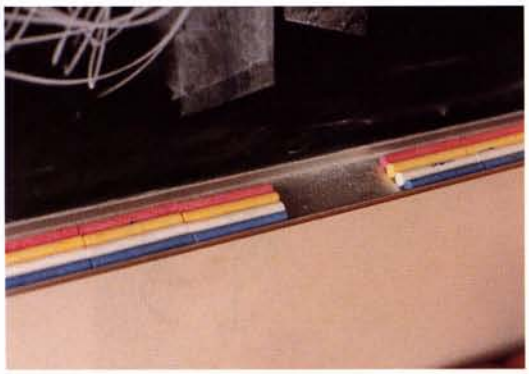


図　3



図　4



図　5



図　6



図　7



図　8



図　9



図　10



図　11



図　12



図　15



図　13



図　16



図　14

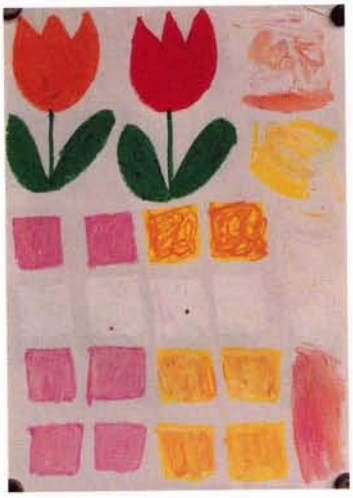


図　17



図　18



図　19

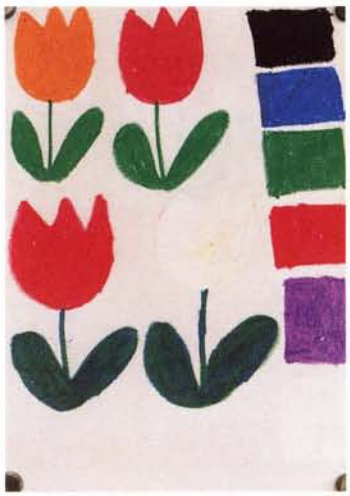


図　20



図　21



図　22